

## 3月議会報告 井之川博幸議員の一般質問

# 安心して結婚し子育てできる沼田市めざして

井之川博幸議員は、3月議会の一般質問において、「安心して結婚し子育てできる沼田市をめざして」と題して、「新婚及び子育て世代への住宅支援」「子どもの命と健康を守る」「子育て支援」についての施策を実施するよう市長に要求しました。

井之川議員はまず、これらの施策の実施を要求する理由について次のように主張しました。

「大企業と大金持ちをいっそう優遇するアベノミクスを推進する安倍政権の暴走によって、地方は急激な人口減少と消滅可能自治体などと呼ばれる少子化に陥っています。安倍政権は、これらの地方の衰退が長きにわたって「利潤第一主義」を推し進める自民党政治にあることを認めず、いっそうの拍車をかけています。自らの責任は棚に上げて、「地方創生」などという政策を上から押し付け、地方自らが「地方創生計画を作り実行するところに金を配る」といって、もともと地方に配分する地方交付税をその道具に使い、地方自治体同士を競争させています。そして一部の大都市と大企業を勝ち組にし、その他ほとんどの地方自治体は自らの努力が足りないことを理由にして負け組に転落させていこうとしています。私たちは、この安倍政権の悪政から沼田市民と地域社会を守るために、利潤第一主義ではなく、住民の命と暮らしを守ることを第1としなければならないと思います。」

## 新婚及び子育て世代への住宅支援策を

まず井之川議員は、市営住宅の建設や民間住宅を借り上げ市営住宅として貸し出すよう求めました。

市長は、「老朽化した谷地端団地を多世代共生住宅として建て替え計画をすすめている」と述べ、民間住宅の借り上げについては、「早急に検討していきたい」と答えました。つづいて井之川議員は、家賃補助や新築住宅の建築費や住宅ローンへの補助を求めました。

(右上、中段につづく) ↑



井之川博幸市議

(左下からつづく)

# 子どもの命と健康を守るために

井之川議員は、まず不妊治療の助成を拡充するよう求めました。市長は、「内容の充実について検討していく」と答弁しました。つづいて井之川議員は、乳幼児健康診査の拡充・改善を求めました。

市長は、「健診や相談、訪問など、さまざまな方法によりきめ細かく対応して」といくと答えましたが、健診の回数を増やすことは消極的でした。



## 子どものインフルエンザ予防接種に市の助成を

つぎに井之川議員は、子どもにはインフルエンザウイルスが脳に達したときにおこるインフルエンザ脳症という命に係わる病気があり、少数であるが毎年発病の症例があることを示すとともに、保育園・幼稚園・学校などでは子ども同士の感染が早く、学級閉鎖などで学習などが遅れる弊害もたびたびあることをあげ、高齢者のように予防接種に助成をすべきと要求しました。



市長は、「かからないことが重要なことは認識している。インフルエンザ予防接種は任意性で希望者に接種されているが、自己負担で行われている」と現状を肯定し、助成には消極的な姿勢を示しました。

## 原発事故放射能影響甲状腺がん検査実施を

さらに井之川議員は、5年前の東電原発事故による放射能汚染で沼田市の子どもたちも被曝しており、チェルノブイリの例から甲状腺がんの発生は5年後がピークになっていることから、放射線影響健康検査を実施すべきだと要求しました。

市長は、「現時点では健康影響検査の必要性は低い」と答弁しました。



2016年4月3日 No.787

# いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料